



第202回例会 1963.6.11 (火) 晴

例会場 鶴岡市一日市町 ひ さ ご や (707番)

事務所 鶴岡市馬場町十日町口 商工会議所内 (1563番)

○出席報告

本日の出席 35名 欠席 安藤君、長谷川君、五十嵐君、(伊)君、金井(勝)君、海東君、大野君、菅原君、佐藤(仁)君、伊藤君、中台君  
出席率 77.08%

前回の修正出席率 72.92%  
修正出席数 39名  
修正出席率 85.42%

メ 安藤君 (酒田R.C.)  
I 広瀬君 (新庄R.C.)  
ク ア 海東君 (クク)  
ツ 大野君 (村山R.C.)  
プ 佐藤(昇)君 (酒田R.C.)  
石井君 (名古屋R.C.)

○司 会 会 長

○ソ ン グ 奉仕の理想 リーダー 広瀬君

○ビジター

菅野和助君 (酒田R.C.)  
菅原利郎君 (クク)  
後藤 勇君 (クク)

○連絡事項

○6月の会員誕生者 おくさんの誕生  
張 君 安藤美智子さん  
伊藤君 石井とめさん  
石黒君 今間よしへさん  
三浦きみよさん

○四年間皆出席

田中君  
小花君

○鶴岡ロータリークラブの生いたち

田中君

当クラブの発会は、丁度雪の降る最中に発会されたわけですが、当時酒田の庭さんが鶴岡市にロータリークラブを誕生させ、ロータリー精神を育成しようと、阿部吉郎さんと山形の安在先生とお話しになり、発会されたわけです。

その時、私が書記格という形で発足しましたが、初代の会長にだれにするかとの話で小花さんをお願いした次第です。その時会員数僅か22名で発会されたわけでした。

その間いろいろな問題がありましたが、今日でようやくロータリーの基礎が完成したわけです。

創立当時のいきさつや又このクラブの発展も一偏に安在先生の陰の努力のたまものと思います。

○『ロータリー財団を支持する為の親証書』

ロータリー財団の年間援助のために「ロータリー財団の支持者」としての資格証と国際ロータリーの理事会が

最近用いる向きによつて、クラブは10and 1planを採用します。新しい証書はそのプランを選んで証明するのに10ドルをロータリー year の間に直ちにクラブに入ること承認された各新会員に、そして1ドルづつをクラブの他の会員が寄附することをクラブに割当てるでしょう例年ロータリー財団に寄附されるその様なもので、クラブの計画が立てられて行くのです。クラブが証明するところの10and 1plan採用の紙はこのR.I ニュースと一緒に同封されています。この計画の採用は国際ロータリーの理事会によつて特に推薦されたもので、100%ロータリー財団クラブの地位を終始成遂げる事を可能に次第に増大して高い比率にたつています。これは又クラブが悪い比率に立つ1年から次の年に会員をふやすという手助けになるでしょう。最も大切なのは、どんな方法でも計画に実際に参加し、財団が必要である支えを備えて財団の計画をより一層理解し、他国の人々と親しく友好関係を結ぶことです。

○『1961年の東京での大会で見事な噴

水が贈呈されました』

東京のロータリークラブから寄贈された美しい御影石の(飲用)噴水は、皇居の隅に置かれ、1961年の大会の時に贈呈式を行ないました。岐阜県から取り寄せた御影石はごく質素なデザインで神々しく、その噴水は雄大な松の木の下にあり、背景には近代的建物が立ち並んでいます。贈呈式には50人のクラブ会員及びその他宮中の高官達が出席され、新聞紙上やテレビジョンに出たりして、東京のロータリークラブの3年計画が見事に達せられたのです。その噴水の下の方にはロータリークラブの象徴と記念すべき言葉が刻まれてあり、何千人となく宮城を訪れる人々がクラブで都に贈つた美しい噴水を見てそれに刻まれている言葉を読む機会が与えられたわけです。

○幹事報告

○会報到着 長井、本荘、新津、村上各R.C

○例会日臨時変更

石巻東R.C 6月15日を6月14日

○事務所変更

新津R.C

新事務所 新津市4の丁 新津商工会議所

○仮クラブ設立

丸亀R.C

例会日 毎木曜

例会場 丸亀市富屋町 丸亀信用金庫

事務所 全 上

○大阪北R.Cより(10年の歩み)頂戴致しました。

○インドのKANPUR.Cより東南アジアの各国語で書いた四つのテストの小冊が送付されて来ました。

○ロータリアン誌購読者は半期分(¥450円)至急御納め下さい。

○ニコニコ箱

張 君	誕生祝
石 黒 君	
石 井 君	
今 間 君	
三 浦 君	
小 花 君	4年皆出席
田 中 君	

○本日の献立

刺身 鯛、焼物 油子塩振り出、味噌汁 みづ豆腐